



メッセージ再生の設定の変更

- [メッセージ再生の設定について, 1 ページ](#)
- [メッセージ確認時に再生される情報, 1 ページ](#)
- [電話で聞くすべてのメッセージの再生音量の変更, 2 ページ](#)
- [コンピュータのスピーカーで聞くすべてのメッセージの再生音量の変更, 2 ページ](#)
- [電話で聞くすべてのメッセージの再生速度の変更, 3 ページ](#)
- [コンピュータのスピーカーで聞くすべてのメッセージの再生速度の変更, 3 ページ](#)
- [メッセージの再生順序の変更, 4 ページ](#)
- [メッセージの前後に Cisco Unity Connection が再生する情報の変更, 5 ページ](#)
- [電話切断時の Connection によるメッセージ処理方法の変更, 6 ページ](#)
- [Connection によるメッセージの削除確認を行うかどうかの変更, 7 ページ](#)

メッセージ再生の設定について

メッセージ再生の設定では、電話でメッセージを確認したときに何が再生されるかを制御します。メッセージ再生の設定を電話メニューの設定と組み合わせて使用すれば、Cisco Unity Connection カンバセーションのさまざまな機能をカスタマイズできます。

メッセージ確認時に再生される情報

電話でサインインすると、Cisco Unity Connection は録音した名前を再生し、新しいメッセージおよび開封済みメッセージの数をアナウンスします。メッセージの数に続いて、Connection はメインメニューを再生します。

新しいメッセージまたは古いメッセージのどちらかを再生するように選択すると、Connection により、Messaging Assistant Web ツールで指定した順序でメッセージが再生されます（まず、メッセージタイプおよび緊急性の順で、次にメッセージの送信時刻の順になります）。

メッセージと送信者に関する情報は、メッセージを残したのが別のユーザか、身元不明発信者かによって異なります。

Connection ユーザ	メッセージ番号、タイムスタンプ、およびメッセージを残したユーザの録音した名前または内線番号（あるいはその両方）が再生されます。
身元不明発信者	メッセージ番号およびタイムスタンプが再生されます。 発信者の電話番号が使用可能で、再生するように設定されている場合は、発信者の電話番号も再生されます。

メッセージの再生前後に、メッセージとメッセージ送信者に関して Connection が再生する情報を指定できます。

電話で聞くすべてのメッセージの再生音量の変更

このセクションの手順では、電話でメッセージを確認するときの、再生音量を変更します。



(注) ここで設定した音量は、Cisco Unity Connection カンバセーション、録音名、ユーザグリーティングの音量には反映されません。

手順

- ステップ 1 Messaging Assistant で、[設定] メニューの [メッセージ再生] を選択します。
- ステップ 2 [メッセージ再生の設定] ページの [メッセージ音量] リストで、メッセージの再生に使用するレベルを選択します。
- ステップ 3 ページの下までスクロールし、[保存] を選択します。

コンピュータのスピーカーで聞くすべてのメッセージの再生音量の変更

このセクションの手順では、コンピュータのスピーカーでメッセージを聞くときの、再生音量を変更します。



(注) ここで設定した音量は、Cisco Unity Connection カンバセーション、録音名、ユーザグリーティングの音量には反映されません。

手順

-
- ステップ 1** Messaging Assistant で、Media Master を含む任意のページに移動します（たとえば、[設定] メニューの [個人] を選択し、[録音名] フィールドの Media Master コントロールバーを使用します）。
- ステップ 2** 必要に応じて、Media Master の [音量] スライダをドラッグして再生音量を調節します。
-

電話で聞くすべてのメッセージの再生速度の変更

このセクションの手順では、電話でメッセージを確認するときの、すべてのメッセージまたは個々のメッセージの再生速度を変更します。



-
- (注) ここで設定した速度は、Cisco Unity Connection カンバセーション、録音名、ユーザグリーティングの速度には反映されません。
-

手順

-
- ステップ 1** Messaging Assistant で、[設定] メニューの [メッセージ再生] を選択します。
- ステップ 2** [メッセージ再生の設定] ページの [メッセージ再生速度] リストで、メッセージの再生に使用するレベルを選択します。
- ステップ 3** ページの下までスクロールし、[保存] を選択します。
-

コンピュータのスピーカーで聞くすべてのメッセージの再生速度の変更

このセクションの手順では、コンピュータのスピーカーでメッセージを聞くときの、すべてのメッセージまたは個々のメッセージの再生速度を変更します。



-
- (注) ここで設定した速度は、Cisco Unity Connection カンバセーション、録音名、ユーザグリーティングの速度には反映されません。
-

手順

-
- ステップ 1** Messaging Assistant で、Media Master を含む任意のページに移動します（たとえば、[設定] メニューの [個人] を選択し、[録音名] フィールドの Media Master コントロールバーを使用します）。
- ステップ 2** 必要に応じて、Media Master の [スピード] スライダーをドラッグして再生速度を調節します。
- ステップ 3** [再生] を選択して、コンピュータのスピーカーで聞くすべてのメッセージの速度設定を保存します。
-

メッセージの再生順序の変更

新しいメッセージ、開封済みメッセージ、および削除済みメッセージの再生順序は、カスタマイズ可能です。新しいメッセージおよび開封済みメッセージの場合、再生設定を使用して、メッセージをメッセージタイプ（たとえば、ボイス メッセージまたは電子メール メッセージ）および緊急性の順に並べ替えることができます。たとえば、緊急ボイスメッセージに続いて緊急ファクスが再生され、次に通常のボイス メッセージが再生されるように、Cisco Unity Connection を設定できます。

タイプ別に、新しいメッセージおよび開封済みメッセージのデフォルトの再生順序を示します。

- ボイス メッセージ：緊急、通常
- ファクス メッセージ：緊急、通常
- 電子メール メッセージ：緊急、通常
- 開封確認と通知

デフォルトの再生順序は、新しいメッセージでは最も新しいメッセージを最初に再生します。開封済みメッセージおよび削除済みメッセージでは、最も古いメッセージを最初に再生します。

削除済みメッセージは、タイプ別には並べ替えられないため、最も新しいメッセージと最も古いメッセージのどちらを先に再生するかだけを指定できます。

手順

- ステップ 1 Messaging Assistant で、[設定] メニューの [メッセージ再生] を選択します。
- ステップ 2 [メッセージ再生] ページの [新しいメッセージの再生順序] セクションで、[上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、メッセージタイプを再生する順序に並べ替えます。
- ステップ 3 [受信日時による並び替え] リストで、[新しいメッセージ順] または [古いメッセージ順] を選択してすべての新しいメッセージの順序を指定します（特定のメッセージタイプの再生はできないことに注意してください）。
- ステップ 4 [開封済みメッセージ再生順序] セクションで、[上へ移動] ボタンおよび [下へ移動] ボタンを使用して、メッセージタイプを再生する順序に並べ替えます。
- ステップ 5 [受信日時による並び替え] リストで、[新しいメッセージ順] または [古いメッセージ順] を選択してすべての開封済みメッセージの順序を指定します。
- ステップ 6 [削除済みメッセージ再生順序] セクションで、[新しいメッセージ順] または [古いメッセージ順] を選択し、すべての削除済みメッセージの再生順序を指定します。
- ステップ 7 ページの下までスクロールし、[保存] を選択します。

メッセージの前後に Cisco Unity Connection が再生する情報の変更

メッセージプロパティは、メッセージに関する情報です。Connection が再生する情報を、メッセージプロパティのすべて、またはいくつかを組み合わせることで指定できます。何も再生しないように指定することもできます。

デフォルト設定の場合、Connection は、送信者情報、メッセージ番号、およびメッセージの送信時間を再生します。



- (注) 開封確認については情報が若干異なります。複数の受信者が存在する場合、Connection は開封確認のタイムスタンプと理由を受信者リストの前に再生します。受信者が 1 人だけの場合、Connection は開封確認のタイムスタンプと理由を受信者名の後に再生します。

手順

- ステップ 1 Messaging Assistant で、[設定] メニューの [メッセージ再生] を選択します。
- ステップ 2 [メッセージ再生] ページで、下にスクロールして [各メッセージの再生前にアナウンス] セクションに移動します。各メッセージの前に Connection がどのような情報を再生するかを指定するには、次のチェックボックスをオンまたはオフにします。

オプション	説明
[送信者情報]	利用可能な場合は、メッセージの再生前に、Connection によって、メッセージ送信者の名前が再生されます。身元不明発信者の電話番号（利用可能な場合）、またはメッセージを送信したユーザの内線番号が再生される場合もあります。
[メッセージ番号]	メッセージの再生前に、Connection によって、メッセージの通し番号が案内されます（たとえば、「1 番目のボイス メッセージです ... 2 番目のボイス メッセージです ...」）。 ヒント Messaging Assistant のメッセージカウントをオフにすることもできますが、メッセージ番号がわかると、メッセージ番号を入力してメッセージをスキップできるので便利です。
[メッセージ送信時刻]	これはタイムスタンプです。Connection によって、メッセージが送信された曜日、日付、時刻が案内されます（メッセージの再生前および再生後、またはそのどちらかにこの情報が Connection で再生されるよう指定できます）。

ステップ 3 各メッセージの再生後に Connection がメッセージのタイムスタンプを再生するかどうかを指定するには、[各メッセージの再生後にアナウンス]セクションで、[メッセージ送信時刻]チェックボックスをオンまたはオフにします。

ステップ 4 [保存] を選択します。

電話切断時の Connection によるメッセージ処理方法の変更

メッセージ本文にアクセスしてメッセージの処理方法を指定する前に電話を切断した場合（または切断された場合）の処理として、メッセージに新規マークを付けて残す、または保存済みマークを付けて残すのいずれかを選択できます。

手順

ステップ 1 Messaging Assistant で、[設定] メニューの [メッセージ再生] を選択します。

ステップ 2 [メッセージ再生] ページの [メッセージ再生中に切断された時、またはユーザが切断した時] セクションで、適切なオプションを選択します。

オプション	説明
新規メッセージのマーク: 開封済み	メッセージに開封済みマークを付けます。

オプション	説明
新規メッセージのマーク: 新規	メッセージに新規マークを付けます。

ステップ3 [保存] を選択します。

Connection によるメッセージの削除確認を行うかどうかの変更

新しいメッセージまたは開封済みメッセージを電話で削除するときに、Cisco Unity Connection で確認するかどうかを選択できます。

手順

- ステップ1 Messaging Assistant で、[設定] メニューの [メッセージ再生] を選択します。
- ステップ2 Connection による確認を有効にするには、[メッセージ再生] ページの [メッセージを削除するとき] セクションで、[新規および保存済みメッセージの削除を確認する] チェックボックスをオンにします。
Connection による確認が不要な場合は、このチェックボックスをオフにします。
- ステップ3 [保存] を選択します。

Connection によるメッセージの削除確認を行うかどうかの変更